みんなのひろば

▲▶生ごみ堆肥を利用して作った地場産野菜即売。エコクッキングコーナーほか、たくさんのイベントで賑わった「第７回エコロまつり」。
５月１日㈮／リサイクルふれあい館エコロ
（撮影：市民カメラマン・岩田洋一）

▲本郷竹林を守る会の皆さんの協力で、柳瀬小学校５年生72名が竹の子掘りを体験。みんなで楽しく収穫した春の恵みは、給食の一品に加えられました。　４月22日㈬／本郷地内竹林

▶ボランティアの方々の協力で、きれいなお花畑が出来あがりました。たくさんの草花が、さわやかな風に楽しそうに揺れていました。地元農産物の直売会も大いに賑わいました。
５月16日㈯／北野二丁目（撮影：市民カメラマン・木村清貴）

▲多聞院で寅まつりが行われました。本堂では護摩がたかれ、境内には300本を越えるぼたんが咲き誇り、見る人を楽しませていました。
５月１日㈮／多聞院（中富）
（撮影：市民カメラマン・西田憲正）

誰でもエッセイ

◆テーマ「子育て」

子育ては親育て

宮本町　大島　良英

最近は子育てに参加する父親も増えてきたようですが、私のこれまでの20年間を振り返ると学校の保護者会の行事などに出てもほとんどが母親ばかりで、父親はほんの数人でした。

そのような中で感じたことは「子育て」というのは実は親が親らしくなるためのものであり、何物にも代え難いという事です。

これからの若い人には、ぜひ積極的に子どもと関わっていただきたいと思います。

二人のお姫さま

山口　三津谷　陽子

ママー！ママー！と元気な声で我が家の朝は始まります。現在、３歳の娘と４か月の娘を持つ２児の母です。長女はとにかく甘えん坊＆ママっ子で「ママ！ママ！」を連発。一方、次女はのほほんと構えるおっとりタイプ。

まだまだ子育てスタートしたばかりですが、これからも楽しく育児をしていきたいと思います。

子育ては愛しきもの

若狭　伊藤　佳子

私は長女・長男・次女の３人を授かった。離乳食作りは長女には一生懸命だったが、３人目になると手抜きになってしまった。成長の節目ごとに記念写真を撮り祝った。「泣いた」「笑った」「歩いた」「転んだ」と一喜一憂しているうちに、いつしか３人とも断りもなく親の背丈を越えていった。「子育て」に親も育てられた。再び子育てをするとしたら、どんな子育てをするだろうか。

４月にビカビカの１年生になった初孫にランドセルを贈った。これから孫に娘の子育てを見るのが楽しみである。

ふり返れば

若松町　瀬井　美代子

３歳の次男の初保育参観のときのこと。興奮しすぎて集団からはみ出てばかりのわが子。穴があったら入りたいと体が熱くなったのを覚えている。親心は「人並み」を求めてつい他人と比べがち。親バカの自分を反省する日々をふり返る。

定年退職後、子どもから孫の保育を頼まれることが多くなった。今時の若夫婦の経済事情は厳しい。「これ以上休むと欠勤扱いだから…」と言う長女から、微熱の続く孫を預かることに。女性が働き続ける厳しさは今もそう変わっていないことに愕然とする。

歴史再発見　ところざわの文化財 ㉞

新指定文化財の紹介 ～勝光寺本堂～

今回は、４月１日に新たに所沢市指定文化財となった勝光寺本堂を紹介します。

この建物は、延宝５年（１６７７）に京都竜安寺の方丈（住職の居所）を移築したとの伝承があります。その裏付けとして、建物の形式や意匠に特徴を見いだすことができます。

平面の形式は、ともに両側に脇間を備えた内陣、外陣からなる六間取り形式をとっています。外陣の南側には広縁が設けられています。内陣には仏壇を全面に設けている点が特徴的です。広縁は現在室内に取り込まれていますが、外陣との境の柱面には風食の跡が見られます。これはかつて広縁が吹き放しだったことを示しています。このことは建物の主要部分の用材がヒノキ材であるのに対し、広縁外側の柱はケヤキ材であることからもうかがえます。

また、室内は外陣とその両脇間の３室全体を一つの天井で覆い、天井が浮遊するような蟻壁と呼ばれる意匠が印象的です。

これらはいずれも江戸時代初期における京都臨済宗系寺院の方丈建築の特色を示すものです。以上のことから推測すると、京都で方丈として使われていた建物を何らかの理由で解体し、当地へ運び込み、再建する際に武蔵野のからっ風を避けるためにケヤキ材を用いて広縁を室内化したと考えられます。

関東地方では、稀な建築様式を受け継ぐ遺構として大変貴重です。

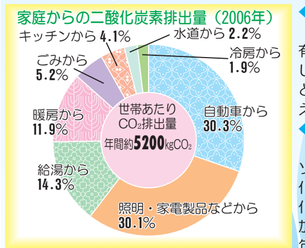
問い合わせ　文化財保護課（☎2998－9253）

エコ・モビリティでいこう！

「エコ・モビリティ」を通じて暮らしを見直そう

◆日常生活でのCO_2排出量は

マイカーはバスや電車よりも一人当たりのエネルギー使用量が多いことは先月号でお話しました。それでは、家庭の中ではどうでしょう。家庭からの二酸化炭素排出量をみますと、自動車からの排出量が一番多く、次に照明・家電製品となります。



◆マイカーの保有台数の変化は

100世帯あたりの家庭での保有台数は、昭和36年は約３台でしたが、平成15年には約144台となり、１家に1.5台にまで増えています。

◆化石燃料はいつまであるの

自動車を動かすためには、ガソリンや軽油、天然ガスなどの化石燃料を使うため、地球温暖化の主な原因の二酸化炭素を増加させます。また、石油は約40年、天然ガスは約63年で無くなると言われています。使い方を考える必要がありますね。

◆マイカーに頼ったライフスタイルを見直そう

近所への移動は徒歩や自転車にしてみましょう。お住まいの地域で新たな発見があるかも。遠方へは電車やバスを利用しましょう。暮らしを見直して、二酸化炭素の排出を減らしましょう。

出　典　「日本の1990～2006年度の温室効果ガス排出量データ」温室効果ガスインベントリオフィス／「平成15年版家計消費の動向」内閣府経済社会総合研究所編／全国地球温暖化防止活動推進センター　より

エコ・モビリティとは、環境にやさしい移動の仕方を意味する造語です。

みんなで止めよう温暖化　チーム・マイナス6%　所沢市は温暖化対策をすすめます

問い合わせ　環境総務課（☎2998-9133・FAX2998-9394）

皆さんからの写真や投稿をお待ちしています！

▶「みんなの広場」では、エッセイおよび市内で撮影した写真やイラストなどを募集▶写真には撮影日・場所・コメント（約60字）を明記▶エッセイはテーマにそって300字以内▶次のテーマは『お気に入りの場所』▶文章は添削あり▶締め切りは**６月８日㈪必着**▶掲載者には記念品を進呈◎いずれも住所・氏名・年齢・電話番号を明記のうえ〒359-8501並木１-１-１所沢市役所広報課「みんなの広場」係へ郵送またはＥメール（アドレスhiroba@city.tokorozawa.saitama.jp）でご応募ください。

ぱ・つ・ら・つ　野老（ところ）っ子

荒幡の富士を守り続ける「荒幡富士保存会」

金子　八郎さん（荒幡在住）

皆さん、荒幡富士山に登ったことはありますか？それは荒幡地区の浅間神社にある標高119.4mの人工の山です。緑豊かな丘陵地帯にあり、山頂からは市内をはじめ新宿の高層ビルから本家の富士山まで一望できます。山には１～10合目までの合目石と登山道が整備され、春には鮮やかな新緑の緑に、晩秋には紅葉による赤や黄色に彩られます。昭和44年に、所沢市の文化財として指定され、本年２月には「彩の国景観賞2008」を受賞しました。

築山110年の美しい山容も荒幡富士保存会の皆さんの長年にわたる地道な努力によって整備・維持されてきました。今回は同保存会の会長・金子八郎さんにお話を伺いました。

金子さんは昭和５年に生まれ、以来ずっと荒幡の富士の麓にお住まいで、特別の思い入れを持っています。

「荒幡の富士は、当時100世帯に満たない荒幡村の村民が力を合わせ、人力で15年をかけ明治32年に開山した村人たちの『和と汗の結晶』です。私たち子孫がなんとしても守っていかねばならない文化財です」と、金子さんはその熱い思いを語ります。

金子さんは、昭和25年に所沢町立吾妻中学校（現南陵中）の校歌を作詞し、平成14年に市立第二幼稚園の園歌の作詞も手がけました。また、校歌に荒幡の富士が歌われている荒幡小学校をはじめ、市内の小・中学校に赴いては、子どもたちに荒幡の富士や里山の素晴らしさなどを伝えています。

戦時中、家族の幸せを荒幡の富士に願ってから出征した金子さんは、戦後になってから有志を募り本格的に保存活動を始めます。平成14年からは、同保存会の会長となり、清掃活動やパトロールにリーダーシップを発揮してきました。

「地域の宝」としての愛着と誇りを持って、荒幡の富士の保存に取り組む金子さん。その語り口は、来年傘寿（80歳）を迎えるとはとても思えないほどエネルギッシュでした。

▲荒幡の富士の清掃活動（昨年）